

『堺市史』刊行80年記念資料展



平成22年

10月9日(土)～28日(木)

休館日18日・25日(月曜)

堺市立中央図書館 1階ロビー

『堺市史』刊行から80年

本年(平成22年)は、昭和5年(1930)に『堺市史』が刊行されて80年目にあたります。『堺市史』は当時、『大阪市史』『長崎市史』とともに「日本三大市史」の一つと高く評価され、市史の手本ともされました。市史編纂部が収集した史料の複製は「堺市史史料」として、現在堺市立中央図書館が引き継いで所蔵しています。原本は戦災などで失われたものも多く、堺の歴史研究のための貴重な資料群となっています。今回、これらの資料を展示し、広く市民に『堺市史』について知っていただく契機としたいと思います。

1. 『堺史』の編纂の頓挫と『堺大観』

明治36年(1903)開催の第5回内国勸業博覧会の関連事業として、同34年より「大阪史」(のちの『大阪市史』)の編纂が開始されました。このことに刺激され、堺市においても同年より「堺史」の編纂が開始されました。しかし出版が予算化されず、一年あまりで編纂は頓挫してしまいましたが、その成果の一部が「堺大観」と名づけられた稿本と、史料集(「堺史料類纂」)数十冊として残され、現在当館に伝わっています。



「堺大観」(稿本)全7巻



「堺史料類纂」

「堺大観」には、約70点の写真が添付されていますが、その中には明治35年(1902)前後の堺の町の様子を写したものがふくまれており、貴重な史料となっています。



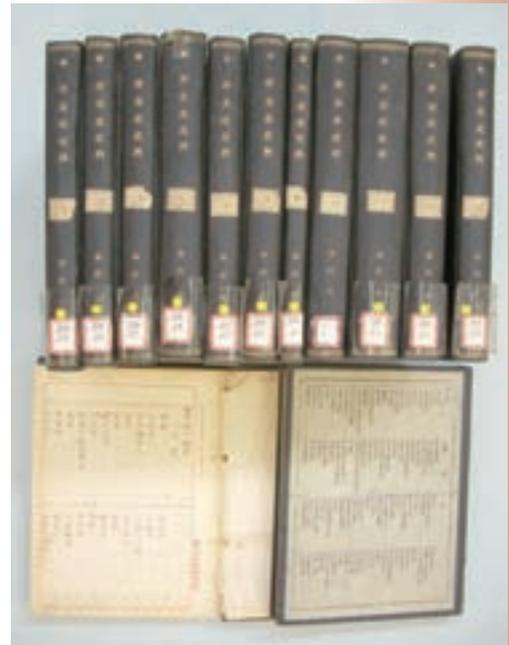
大道筋(「堺大観」写真)

2. 『堺市史』編纂事業の開始

『堺史』編纂の頓挫後20年を経て、大正12年(1923)の関東大震災で多くの歴史資料が失われるのを目の当たりにして危機感を持った堺市当局が、翌13年に市史編纂部の設置を市会に上程、可決されました。監修は京都帝国大学の三浦周行博士^{ひろゆき}に委嘱されました。史料収集にあたっては、広く市民に協力をよびかけ、資料展や講演会を開催するなど、市史編纂事業を市民を巻き込んで盛り上げていこうとしたことが注目されます。史料収集は全国におよび、借用した古文書などの史料を原稿用紙に翻刻し、絵図なども手描きで複製を作成するなど、地道な作業が進められました。収集されたこれらの歴史資料の複製は、「堺市史史料」として整理され、市史刊行後、当館(当時の堺図書館)に移管され、現在に至っています。



市編纂部作成の「資料探訪目録」と「書籍台帳」



堺市史史料

「堺港図」について

1669年にオランダで出版された、いわゆる『モンタヌス日本誌』の挿絵として使われている図で、当時の現実の堺と異なる面が目につきますが、西洋人の目を見た堺のイメージがわかり興味深いものがあります。『モンタヌス日本誌』は大正14年(1925)に日本でも翻訳が刊行されていますが、銅版画の原図は、当時、市史編纂部が入手しようとして手に入らず、後年になって当館に寄贈されたようです。



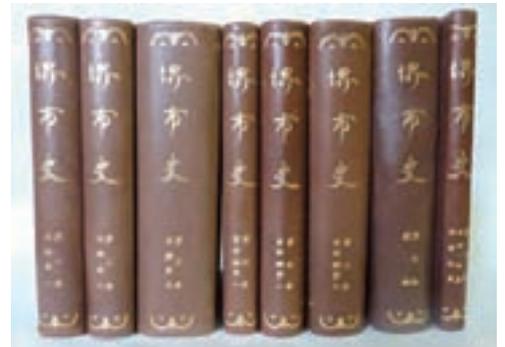
堺港図(『モンタヌス日本誌』挿絵の版画)

3.『堺市史』の完成

昭和3年度から5年度にかけて、『堺市史』は全8巻が刊行され、昭和5年(1930)には、完成記念絵葉書が発行されるなど、刊行を記念する行事が行われました。完成までに、世界恐慌にはじまる不況で刊行が危ぶまれるなど、紆余曲折がありました。市史編纂部が収集した史料は整理されて、図書館が引き継ぎ、後世の利用に備えました。昭和に入って堺市は周辺町村を合併しましたが、これらの新市域の歴史は昭和51年に刊行された『堺市史続編』で扱われています。最初の刊行から80年を経て、その後の研究成果を踏まえて、新たに新修の『堺市史』の編纂が求められますが、多くの市民の理解が必要であることはいうまでもありません。



市史刊行の難航を伝える当時の新聞記事スクラップ



完成した『堺市史』



堺市史完成記念絵葉書

与謝野晶子と「堺市史」

堺の津南蛮船の行き交へば

春秋いかに入りまじりけむ

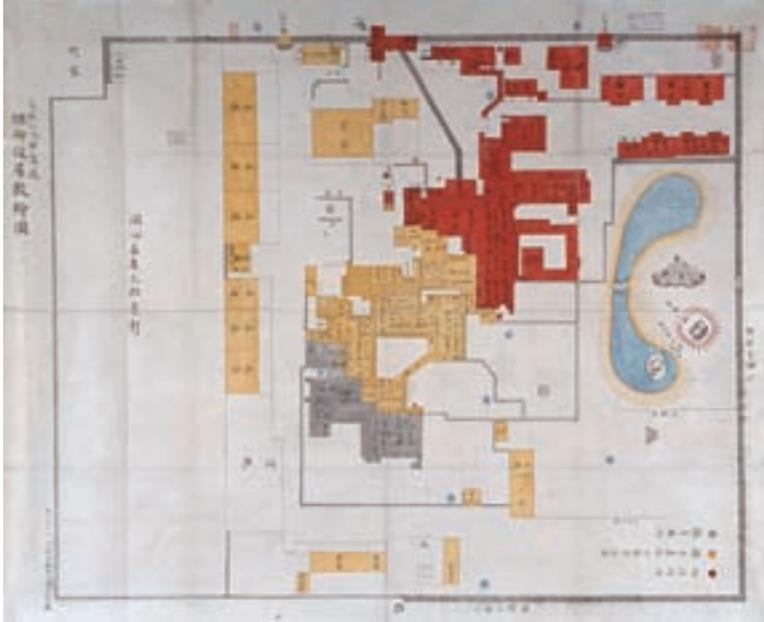
堺出身の歌人、与謝野晶子が中世の堺の繁栄をイメージして作ったこの歌は、当館前にある歌碑に刻まれています。従来この作品は、昭和5年の『堺市史』完成を祝って堺市に贈ったものとされてきました。しかし、実際には昭和3年に堺市役所が発行した『堺市案内記』に掲載されていることから、市史完成時ではなく、市史の編纂が進むなかで、晶子が市史に寄せて作った歌と思われる。



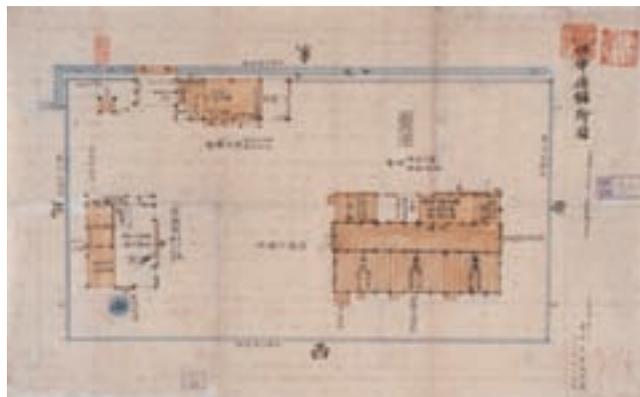
4. 「堺市史史料」から—堺奉行関係

「堺市史史料」には「手鑑」（現在の市政要覧にあたる）をはじめとして、堺奉行所が作成した資料の複製が多く含まれています。最近になって、正徳元年（1711）に堺奉行に任ぜられた若狭野浅野家の

史料が兵庫県のたつの市立龍野歴史文化資料館で発見され、「堺市史史料」のものをややさかのぼる内容のものなどを含むことがわかりました。堺奉行所の役職の配置がわかる「御役屋敷絵図」なども、その一つです。



堺御役屋敷絵図（文政2年）

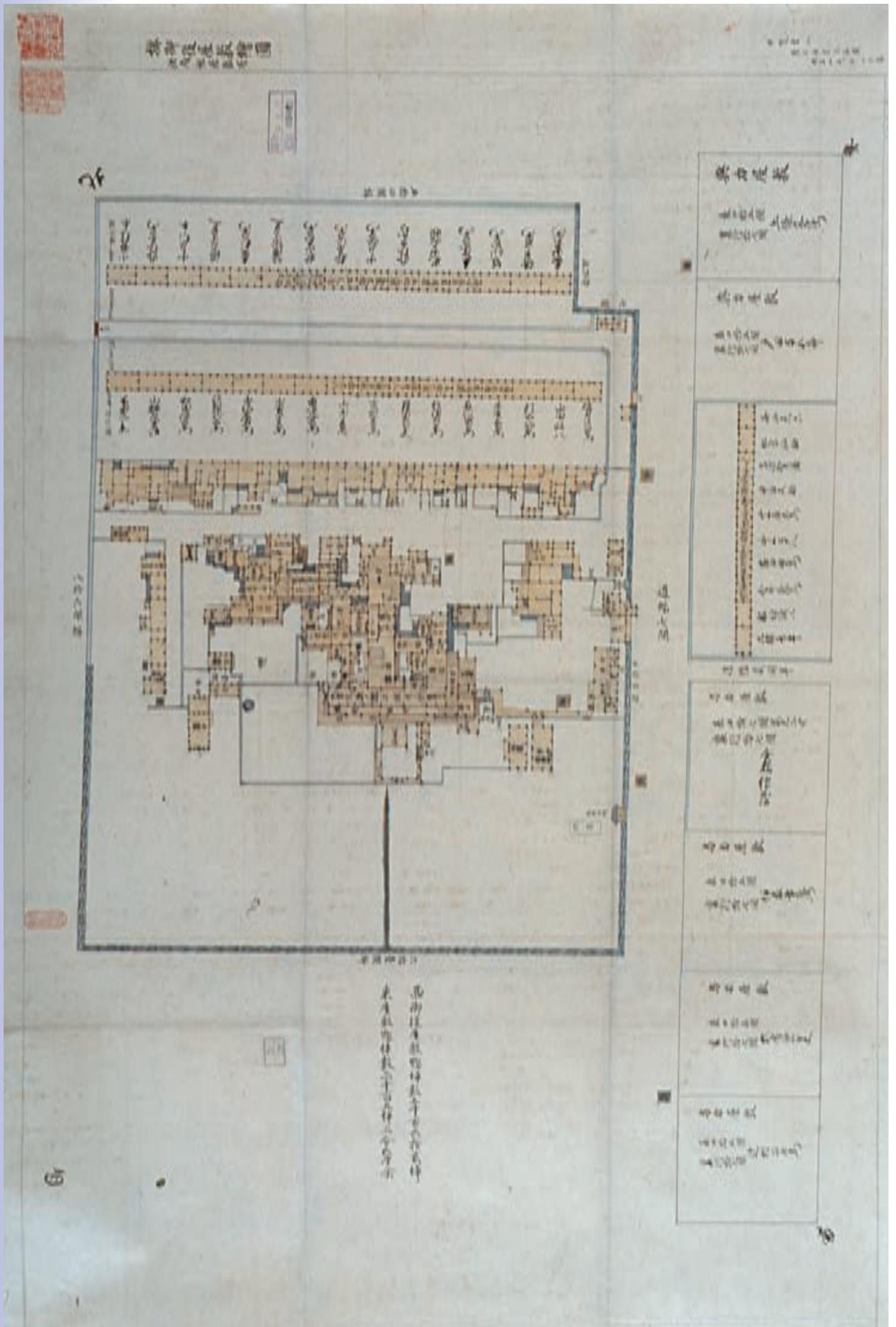


堺牢屋舗絵図

宝永元年（1704）に付け替えられた新大和川は、当初大坂代官が支配していましたが、享保3年（1718）、堺奉行に移管されました。「堺市史史料」にふくまれる大和川関連の絵図類も、多くがもともと堺奉行所が作成したものの写しであると考えられます。



大和川沿村支配絵図



保御屋敷敷圖 (享保13年)

5. 「堺市史史料」から一堺港関係

『堺市史』の基礎となったのが監修者である三浦博士の「堺港の研究」であったことからわかるように、堺の町と港は切っても切り離せない関係にありました。そうしたことから「堺市史史料」においても港に関係する史料は数多く収集されています。



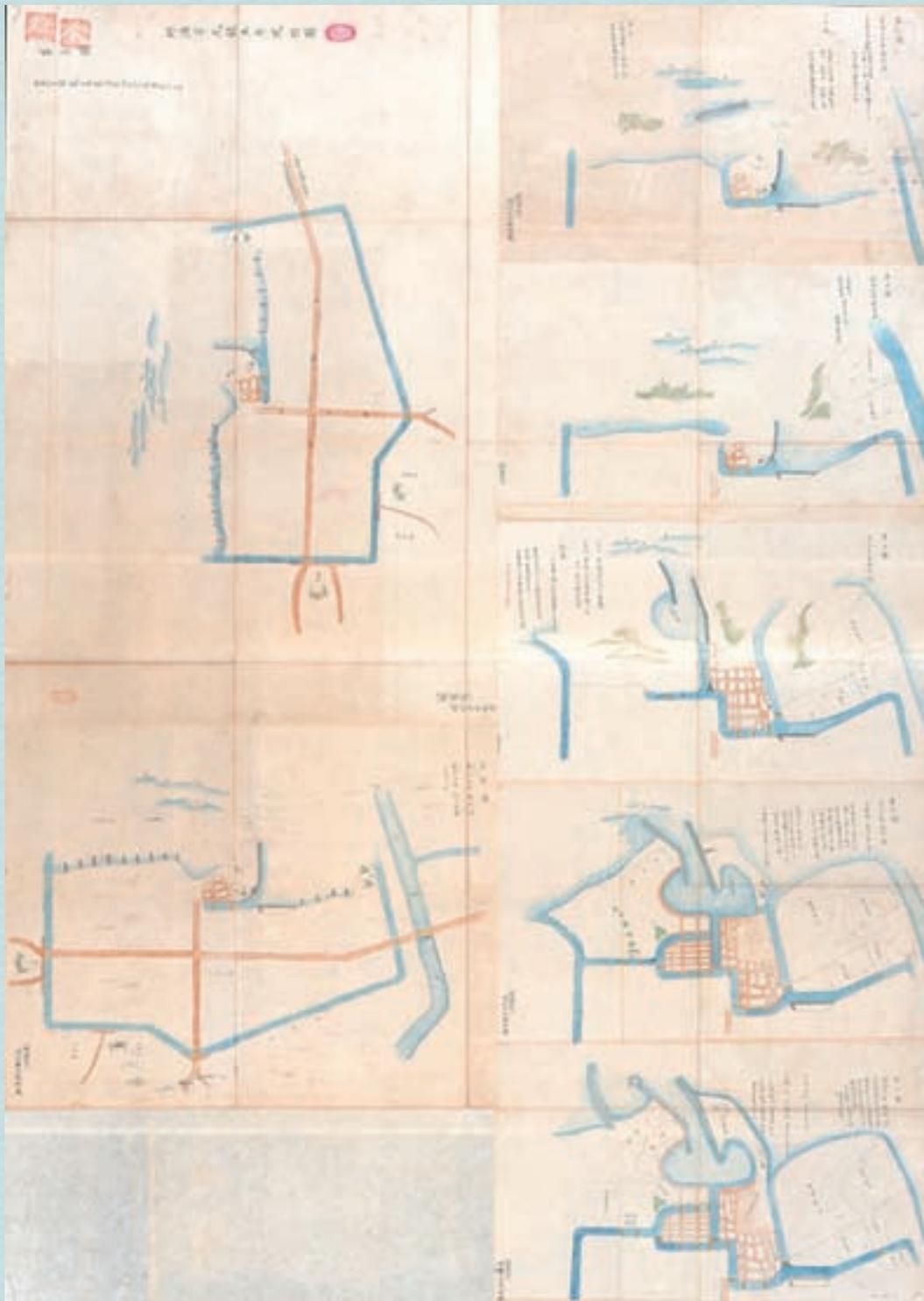
『堺市史』第2巻に挿入の「南蛮屏風」写真。原本は市史編纂部が撮影後、関東大震災で消失されたとされ、本パンフレットの表紙に使った絵は、これをアレンジして模写したものと思われます。ともに「堺市史史料」にふくまれています。類似した屏風は現在も数種類存在すること、描かれている場所は必ずしも堺ではないことが、近年の研究で明らかになっています。



堺浦波止再掘絵図 (寛政2年)



新川口燈籠堂之図 (文化10年)



堺港変遷絵図（元禄5年～明治18年）

記念講演会

堺と中世都市

—「黄金の日」^{はる} 遙か—

講師：仁木 宏氏

（大阪市立大学大学院文学研究科 教授）

日時：平成22年10月10日（日）午後2時～4時

場所：堺市立中央図書館 集会室

定員：80名（要事前申込） 参加無料

『堺市史』刊行80年記念資料展

平成22年10月発行

編集発行 堺市立中央図書館

〒590-0801堺市堺区大仙中町18-1

TEL 072-244-3811

FAX 072-244-3321

ホームページ <http://www.lib-sakai.jp/>

印刷 大盛印刷株式会社

堺市行政資料番号 1-K3-10-0227